

令和 6 年度

「運営に関する計画」

【最終学校評価】

大阪市立鯉江小学校

# 令和 7 年 3 月

大阪市立鯉江小学校

令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

安心・安全な教育の推進という視点では、いじめの認知件数は減少傾向にある。その都度いねいに聞き取りをしたり、学年や管理職も対応にあたったりすることで、早期発見やその後の対応に努めている。しかしながら、学校側の対応が遅れたり、指導が十分に入らずに事態が長引いたりすることもあるため、報告・連絡・相談をさらに徹底する必要がある。児童の問題行動については、学年や学校全体で情報共有を図り、複数で対応にあたることによって、大きな問題にはなっていない。集団育成の視点からは、児童間のコミュニケーション不足や自分と違う価値観を認めて受け入れる素養などを育成する必要がある。不登校児童もなかなか減らないが、スクールカウンセラーや区役所のこどもサポートネット、こども相談センターなどの関係機関にもつなぎながら対応を進めるようにしている。また、城東区の支援を受けて、1 月からスクールサポートルームを校内に設置し、教室に入れない児童について具体的な居場所づくりを進めている。自尊感情に関わる「自分にはいいところがあると思う」という項目について肯定的に回答する児童の割合が昨年度より少し低下している。日々の生活の中でお互いの良いところや頑張りを認める機会をさらに行っていく必要がある。児童が中心となって活動したりすることで主体性は身に付いてきた、今年度も継続して取り組む。

学力面では、令和 5 年度の大阪市小学校学力経年調査の結果を見ると、平均正答率としては、どの学年・教科においても、ほぼ大阪市平均と同等である。しかし、個人に目を向けると、正答率が 6 割に満たない低位層の児童も複数おり、引き続き個に応じた指導を進めることにより、引き上げを図る必要がある。ICT を活用することにより、個別最適な学びを充実させるよう、デジタルドリルの活用や自主学習の推進を進めてきた。校内アンケートでは概ね 70% の目標値を達成しているが、大阪市小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で計画を立てて学習しているか」という項目について、肯定的に回答する児童の割合が低い。自分で授業の予習や復習をしたり、興味のあることをについて調べたり、という自主学習の習慣化については、児童によってかなり個人差がある。「計画を立てて」というところが難しいようで、児童が自分の学びについて認識したり、自ら調整したりするためにどのように取り組むかが今後の課題である。

教育環境の充実については、令和 4 年度より重点的に取り組んでおり、すべての学年において ICT 活用が進んでいる。校内アンケートにおいては、授業での端末活用や児童間の意見交換について肯定的な回答は概ね目標値を達成している。校長経営戦略支援予算の活用により、全学級に大型テレビの配置を行うことができた。しかしながら、一人一台端末の劣化による不具合が頻発しており、児童のスキルはあるが活用頻度が減少してしまう事象が起こっているのが現状である。今後も ICT の活用は必須となってくるため、引き続き、ICT を活用するとともに、より効果的な活用の仕方についても実践を通して探っていく。本年度も、算数科の研究を中心に据え、授業における研究の視点として 3 つのテーマを掲げ、各学年で取り組んでいく。働き方改革の推進においては、指標にもあるように、第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合が 80% 以上を目指し。時間差勤務の推進やゆとりの日の活用設定などを行いつつ進めていく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 %以上にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和 3 年度より 3 %増加させる。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 85 %以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 35 %以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業は分かりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 70 %以上にする。
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和 3 年度より 0.5 ポイント向上させる。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 90 %以上にする。
- ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、冬季休業期間中は 1 日以上設定する。
- 令和 7 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和 3 年度より 3 ポイント増加させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度（81.1%）以上にする。
- 小学校学力経年調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（89.1%）以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。
- 学校生活・授業アンケートの「規則正しい生活が身についている（早寝・早起き・朝ごはん）」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 60%以上にする。（ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 80%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果と総括

安心・安全な教育の推進においては、児童間のトラブルや事案があった際、その都度でいねいに聞き取りをしたり、学年や管理職も対応にあたったりすることで、早期発見やその後の対応に努めている。校内アンケートの結果をみると「いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか」に対する肯定的な回答は 99%と非常に高い数値であった。報告・連絡・相談をさらに徹底し、重大事案にならないよう取り組みを続けていく。児童の問題行動については、学年や学校全体で情報共有を図り、複数で対応にあたっている。集団育成の視点からは、児童間のコミュニケーション不足や自分と違う価値観を認めて受け入れる素養などを育成する必要がある。不登校児童については減少傾向にある。引き続き、スクールカウンセラーや区役所のこどもサポートネット、こども相談センターなどの関係機関にもつなぎながら対応を進めていく。城東区の支援を受けて、スクールサポートルームを校内に設置し、教室に入れない児童について具体的な居場所づくりを進めているが、今年度は人員の配置ができず、あまり活用できなかった。自尊感情に関わる「自分にはいいところがあると思う」という項目について肯定的に回答する児童の割合が昨年度より低下している。日々の生活の中でお互いの良いところや頑張りを認める機会を増やししていく必要がある。児童が中心となって活動したりすることで主体性は身に付いてきた、来年度以降も継続していきたい。

学力面では、令和 6 年度の大阪市小学校学力経年調査の結果を見ると、平均正答率としては、どの学年・教科においても、ほぼ大阪市平均と同等である。しかし、個人に目を向けると、正答率が 6 割に満たない低位層の児童も複数おり、個に応じた指導や基礎・基本の定着の取り組みを進めることにより、引き上げを図る必要がある。今年度も ICT を活用することにより、個別最適な学びを充実させるよう、デジタルドリルの活用や自主学習の推進を進めてきた。大阪市小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で計画を立てて学習しているか」という項目について、肯定的に回答する児童の割合が伸びない。自分で授業の予習や復習をしたり、興味のあることをについて調べたり、という自主学習の習慣化については、個人差がある。「計画を立てて」というところが難しいようで、児童が自分の学びに自ら調整するためにどのように取り組むかが今後の課題である。

教育環境の充実については、すべての学年において ICT 活用が進んでいる。全学級に大型テレビを配置し、問題場面や資料の提示などで学習内容を視覚的にわかりやすく提示している。授業での端末活用や児童間の意見交換について、積極的に取り入れ児童も操作方法を習得している。しかし、大阪市の目指す基準となると授業のある日の 8 割の活用率にはなかなか届かないのが現状である。年度当初、一人一台端末の劣化による不具合が頻発し、児童のスキルはあるが活用頻度が減少してしまう事象が起こっていたが現段階では改善してきている。今後も ICT の活用は必須となってくるため、来年度以降も引き続き、ICT を活用するとともに、より効果的な活用の仕方についても実践を通して探っていく。

本年度、算数科の研究を中心に据え、授業における研究の視点として 3 つのテーマを掲げ、各学年で取り組んだ。また、指標における年間 6 回の校内授業研究会および公開授業研究会の実施はできた。加えて若手教員の授業実践の機会も多く設けることで授業力の向上に努めた。算数の授業はよくわかると感じている児童も多い。

大阪市立鯉江小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「<u>そう思う</u>」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度（81.1%）以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（89.1%）以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回のいじめアンケートを実施することで、いじめの早期発見・早期解決に努める。</li> <li>・具体的な場面を想定させながら各学年の発達段階に応じて、いじめに関する取組を行うことで、すべての児童が「いじめは絶対に許さない」という意識をもつことができるようにする。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回のいじめアンケートを実施し、上がってきたすべての事案について聞き取りを行う。</li> <li>・いじめについて考える日や、いじめアンケートの実施に合わせて、各学年で学年集会を実施する。</li> <li>・学校生活・授業アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「<u>そう思う</u>」と回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>・毎月1回、生活指導連絡会を行い、各学級でのいじめ事案やトラブルについて、全教員で情報共有を行う。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳心や社会性を高めるために、道徳科の学習や人権教育など教科横断的な取組を行うことで、命の大切さや人権についての意識を高めるようにする。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育についての研修を年3回実施する。</li> </ul>	A

<p><b>取組内容③【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の実現】</b>  ・学校のきまりについて継続的に指導を行い、規範意識を高めるようにする。</p> <hr/> <p>指標  ・学校生活・授業アンケートの「時間やきまりを守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%にする。</p>	A
<p><b>取組内容④【基本的な方向２ 豊かな心の育成】</b>  ・たてわり班を編成し、児童集会や全校集会といった学校行事の様々な場面における交流を通して、高学年を中心に他学年児童と適切に関わろうとする態度を育成する。</p> <hr/> <p>指標  ・学校生活・授業アンケートの、1～3年生は「たてわり班で楽しく活動できた」4～6年生は「たてわり班のメンバーとなかよく過ごすために自分の役割を果たすことができた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を<u>80%</u>以上にする。</p>	A
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向２ 豊かな心の育成】</b>  ・ピア・サポートや仲間づくりなどの取組を、学年ごとに実施することで、集団への所属意識や自己肯定感を高めるようにする。</p> <hr/> <p>指標  ・学校生活・授業アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、前年度(81%)より増加させる。</p>	B
<p><b>取組内容⑥【基本的な方向２ 豊かな心の育成】</b>  ・キャリア教育の年間実施計画に基づき、ゲストティーチャーの招聘や出前授業等体験的な活動を多く取り入れ、児童一人一人のキャリア形成につながる実践を計画・実施する。</p> <hr/> <p>指標  ・学校生活・授業アンケート「好きなことや夢中になっていることはありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度水準(89%)を維持する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>取組内容①【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の実現】</b>  学校生活・授業アンケートによる「いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか。」に対する最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は、95%と指標の80%以上を大きく上回った。いじめアンケートを各学期に実施し、上がってきたすべての案件について学級で聞き取りを行うことで、早期発見・解決につながっている。また各学年で道徳や日々の指導、必要な場合には学年集会を開くことで、いじめは絶対にしてはいけないという意識を持つことができています。さらに月に1回、生活指導連絡会を実施し、情報共有を行うことで、全教職員で連携して対応することができています。</p> <p><b>取組内容②【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の実現】</b>  人権教育年間指導計画に基づいて、各学年教科横断的に取り組みを行うことができた。また、人権教育についての研修を年3回実施した。</p>	

**取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】**

学校生活・授業アンケートの「時間やきまりを守っていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が 92% で指標の 70% を大きく上回った。今年度きまりをしっかり作り、全教職員で共有し学校全体で指導を進めたため児童の規範意識はかなり高まってきた。

**取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】**

生活・授業アンケートの 1～3 年生は「たてわり班で楽しく活動できた。」4～6 年生は「たてわり班のメンバーと仲よく過ごすために自分の役割を果たすことができた」の項目で、肯定的に回答する児童の割合は 94% と指標の 74% を大きく上回った。今年度はたてわり班活動の編成や行事を大きく変更し、異学年交流の機会が増え楽しく活動している姿が見られた。特に高学年はリーダーシップを持って低学年に優しく関わってくれることが多く、安心してたてわり班活動を進めていくことができた。

**取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】**

・学校生活・授業アンケートの「自分にはよいところがありますか。」の項目について肯定的に答える児童の割合が、低学年は 85% と高かったが、高学年が 74% で全体で 77% となり、前年の 81% より下がった。高学年は否定的な意見というよりは、目標が高くなった分、周りから見ると十分にできていると思えることも自己評価としては低くなることもあるように思われた。

**取組内容⑥【基本的な方向 2 豊かな心の育成】**

・学校生活・授業アンケートの「好きなことや夢中になっていることはありますか。」の項目について肯定的に答える児童の割合が 89% と前年度の水準を維持できた。

**次年度への改善点****取組内容①**

学校生活・授業アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という項目で、「そう思う。」と回答した児童の割合が 95%、「だいたいそう思う。」も合わせると 99% の児童がいじめはいけないと理解はしている。しかし、単なるふざけや、からかいがいじめにつながるという認識が薄いように思われる。また、衝動的に他害をしてしまう児童もあり、日々の出来事のなかで、学校全体としてその都度指導を積み重ね、継続していく必要がある。

**取組内容②**

授業の中だけでなく、日々の生活場面に生かされるよう、教職員自身も人権意識を高めていく必要がある。

**取組内容③**

規範意識は全体的に高まっており、目立ってルールを守らないということはなかったが、廊下を走ったり、講堂に集合した際の教室まで帰る際に押し合ったりする場面で怪我をするようなことがあったため、来年度は移動の仕方や廊下を走らないなどを徹底していく必要がある。



#### 取組内容④

たてわり班をうまく機能させるためには、児童にみんなで協力する意識を高めることが必要だと考えられるため、来年度もたてわり班活動の際には各学級で、高学年は事前に取り組み方等、低学年は班のメンバーとの関わり方の指導を継続していく必要がある。

#### 取組内容⑤

自己肯定感を高めていくためには、日々の生活の中で、お互いの良いところや頑張りを認め、称賛していくことが必要である。教員も関わりのある児童だけでなく、学校全体で日常生活でのささいな児童の頑張りを見つけて、声をかけたり認めたりしていく必要がある。

#### 取組内容⑥

行事が過密になっていることもあり、ゲストティーチャーの回数よりも学級でみんなで何かを楽しめたり、共有できたりする時間がもっと取れるように来年度に向けて行事を考えてく必要がある。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「<u>当てはまる</u>」と回答する児童の割合を <u>40%以上にする。</u></p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。</p> <p>○ 学校生活・授業アンケートの「<u>規則正しい生活が身についている（早寝・早起き・朝ごはん）</u>」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を <u>75%以上にする。</u></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>・ 自主学習やデジタルドリルに取り組むなかで，自ら課題を選択したり，自らの学習を振り返ったりする習慣を身に付けさせ，主体的に学習に向かう態度を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・ 小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で計画を立てて学習しているか」の項目について，肯定的に答える児童の割合を 50%以上にする。</p>	A
<p><b>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>・ 話し合い活動を行う際には，考えを可視化したり操作化したりすることで，自分の考えと友達の考えの類似点や相違点を意識させるとともに，良いと思った考えは積極的に取り入れる習慣を身に付けさせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか」に対して，肯定的に答える児童の割合を <u>70%以上にする。</u></p>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>・ 算数科において，言語能力の育成を目指した指導法の工夫や基礎基本の定着のための時間と内容の充実を図り，児童の学力向上に努める。</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査における算数科の平均正答率を、同一母集団において経年的に比較し、前年度の水準を維持させる。</li> </ul>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国語科や外国語活動の時間をアクティビティを中心とした学習になるように、活動内容や方法を工夫することで、積極的に活動しようとする態度を養う。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国語を使ったゲームやチャンツ等、アクティビティに特化した研修会を年に1回以上実施する。</li> <li>・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</li> </ul>	C
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽や用具を有効に活用することで、限られた場所や時間であっても、児童が楽しく「体づくり運動」に取り組めるように学習内容や方法を工夫した授業実践をする。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。</li> </ul>	A
<p><b>取組内容⑥【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活振り返り週間や食育の日を活用して、睡眠や食の大切さについて児童が具体的に考えることができるような資料や教材を使って、継続的に取組を行っていくことにより、自らの生活をよりよく改善していこうという態度を養う。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月、「食育だより」「保健だより」を作成・配布したり、学級指導用のパワーポイントを提示したりすることで、児童への指導に活かしたり、保護者への啓発を行ったりする。</li> <li>・ 学校生活・授業アンケートの「規則正しい生活が身についている（早寝・早起き・朝ごはん）」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。</li> </ul>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で計画を立てて学習しているか」の項目において肯定的な回答をしている児童の割合は70.2%と目標数値を達成していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主学習では、苦手なことや得意なこと興味のあることを調べるなど、習慣化している児童が増えてきた。</li> <li>・ 授業のスキマ時間や単元の最後にデジタルドリルに取り組むなど、学年の実態に応じた取り組みができている。</li> </ul>	

**取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える児童の割合は86.2%と目標数値を達成していた。

- ・ノートやロイロノート、発表ノートを活用することで自分の考えを可視化したり操作化したりすることができた。
- ・ペアやグループで交流することで、良いと思った考えを積極的に取り入れる児童が増えてきた。

**取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

小学校学力経年調査における算数科の平均正答率について同一母集団において4年生は3ポイント上昇、5年生は、1ポイント下降していたもののほぼ横ばい、6年生は1ポイント上昇していた。

- ・朝学習やスキマ時間を活用し、ナビマやドリルなどで反復練習を繰り返すことで、基本的な学力は定着しつつある。
- ・友達と同じ意見でも自分の言葉を使って考えを説明させるようにした。また、その際には適切な算数用語を使って発表できるように指導した。

**取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

外国語の研修会は年に1回実施した。また、小学校学力経年調査における「外国語は好きですか」の項目に対し、肯定的な回答をしている児童の割合は、62.6%と目標の70%には届いていない。

- ・イングリッシュタイムでは、歌や映像などに合わせてアクティビティを中心に活動することができ、楽しく積極的に学習することができた。

**取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】**

小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目に対し、最も肯定的な回答をしている児童の割合は、72.8%と目標を達成した。

- ・サーキットや水泳学習、なわとびタイムなどでは音楽を効果的に使い、楽しく「体づくり運動」に取り組むことができた。
- ・ネットジム、クライミングウォール、ジャングルジムなど割り当てを決めて使うことで、「体づくり運動」に取り組めた。

**取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】**

学校アンケートにおける「規則正しい生活が身についている（早寝・早起き・朝ごはん）」の項目に対し、「早寝・早起き」の項目では、低学年では73%の児童が肯定的な回答をしたものの、高学年では66.6%と低い結果になった。また、「朝ごはん」については、肯定的な回答が96%と学年に関わらず高い結果となった。

- ・生活振り返り週間や保健指導を通して、自分の身体の大切さや、基礎正しい生活の大切さについて学ぶことができた。
- ・「食育の日」では、月に一度給食の時間に、パワーポイントで食の大切さについて学ぶ

機会をもつことができた。

#### 次年度への改善点

##### 取組内容①

- ・自ら課題を選択したり、学習を振り返ったりすることに慣れていない児童もあり、主体的に学習に向かう態度には課題が残るため、継続的な指導が必要である。
- ・自主学習に取り組む態度には個人差があり、意欲付けしていくためには引き続き指導が必要である。

##### 取組内容②

- ・ただ話し合いをさせるのではなく、しっかりと意図をもったうえで、目的を意識させるような話し合いの場を設定する必要がある。
- ・人の意見を聞いて、自分との類似点や相違点を見つけられるまでには至っていないため、引き続き指導が必要である。

##### 取組内容③

- ・指導法の工夫、内容の充実に取り組み学力向上に努めたが、個人差が大きいのが現状である。そのため、個人のつまづきをしっかりと見取り、個に応じた支援を継続して行う必要がある。

##### 取組内容④

- ・3年生では71.8%、4から6年生では59%と学年が上がると外国語に対する苦手意識が強くなってきているのが現状である。難易度が上がると理解できずに楽しさを感じられてない児童が増えていると考えられる。外国語を身近に感じられるようなゲームやアクティビティを中心とした取り組みを工夫し、実践する必要がある。

##### 取組内容⑤

- ・水泳学習やなわとび週間などを設けることで、取り組みやすくなったこともあるため、その他の活動も全校で統一していくと継続して取り組めるようになる。

##### 取組内容⑥

- ・生活振り返り週間や食育の日などの取り組みにより、睡眠や食の大切さは理解でいていいる児童が多いが、引き続き家庭への啓発も必要である。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の60%以上にする。（ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を80%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①</b></p> <p><b>【基本的な方向6教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</b></p> <p>・一人一台端末を使って、インターネットやデジタルドリル（navima）を活用した。「個別最適な学び」や、ロイロノートを活用した児童同士の合意形成を図る。「協働的な学び」を授業の中に取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。</p>	C
<p><b>指標</b></p> <p>・校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用してほぼ毎日学習している」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を60%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p>・ゆとりの日を週1回設定する。また、定時退勤日を月1回設定し、長時間勤務の解消に努める。</p> <p>・会議の精選や効率化を図る</p>	C
<p><b>指標</b></p> <p>・時間外勤務時間45時間以下の教員の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>取り組み内容①</b></p> <p><b>【基本的な方向6教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</b></p> <p>・校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用してほぼ毎日学習している」の質問に対して肯定的に答える児童の割合は52.95%で達成することができなかった。また、navimaやロイロノートを積極的に活用することができた。</p> <p>・大画面にうつすことで、視覚的にとらえることができ、児童の理解を深める手立てのひとつとして効果的だった。</p> <p>・調べ学習の際、検索機能などを活用することができ、個別最適な学びにもつながった。</p> <p>・個別最適な学びにつながったが、個人差が開きすぎる可能性が懸念される。</p> <p>・端末の故障やトラブルが多く、対応しきれない現状がある。</p>

- ・1年生には navima の操作が少し難しい。シンプルなドリルの模索が必要。
- ・考えを可視化させることで、協同的な学びにつながる場面があった。

#### 取り組み内容②

##### 【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・時間外勤務時間 45 時間以下の教員の割合は 71.9% で達成することはできなかった。
- ・ゆとりの日や定時退勤日を月初めに設定することで、見通しをたてて仕事を進めることができた。
- ・長時間勤務の解消に努めることができている。
- ・長時間の残業や土日出勤する職員もいた。
- ・金曜日や月末の定時退勤などは、月末処理や児童への連絡などがあり。難しい場合があった。
- ・会議自体は減ったが、一回の会議の時間が長くなっている。
- ・会議や研修が減ったことで、学年の仕事に取り組みやすくなった。その反面、教職員全体で動く行事等で、共有できていないことが増えた。
- ・教職員によって仕事量の差が大きすぎる。
- ・仕事に優先順位をつけ、効率化を図ることができた。

#### 次年度への改善点

#### 取り組み内容①

- ・学年や学級によって使用頻度に差があるため教員間での情報共有が必要である。また、忙しい中、研修を何回も開くのは難しいため、どの学年でどんなことに使っているのか、資料として残していく必要がある。
- ・機器の破損や故障によって使用できなくなる期間もあるため、どのように対応するのか、学校全体で周知しておく必要がある。
- ・一人の教員が好き勝手使ってしまうと、保護者からのクレームにもつながってくるため、気を付ける必要がある。

#### 取り組み内容②

- ・教職員の中で仕事量の差が多いため、公務分掌の細分化が必要である。
- ・時間外勤務の時間は減っているが、土日出勤したり家に持ち帰って仕事をしたりしている教職員もいるため、一概に減っているとは言い切れない。そのため行事や会議などの選定を再度する必要がある。